

実務経験のある教員等による授業科目一覧

学 科 名 (修 業 年 限)	声 優 科 (2 年)
-------------------	---------------

2年次			
授業科目名	単位数	実務経験 教員	シラバス ページ番号
アフレコ実習(2)	4	○	VA2-01
ラジオ番組制作(2)	2	○	VA2-02
ナレーション実習(2)	4	○	VA2-03
ダンスレッスン	2	○	VA2-04
取材実習	2	○	VA2-05
卒業制作	2	○	VA2-06
オーディション対策(2)	4	○	VA2-07
自己表現技法(2)	4	○	VA2-08
殺陣・アクション	4	○	VA2-09
日本舞踊	2	○	VA2-10
ヴォーカルレコーディング	4	○	VA2-11
エンターテインメントガイド(2)	2	○	VA2-12

合計単位数 36

授業科目名	アフレコ実習(2)		担当者名	原田晃			
			実務経験	アニメ・外画・声優経験有り。			
教科書 教材	配布資料(台本等) アクセント辞典	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数 120	声優科	2年	通年	必修	講義・演習
授業概要	アニメ、外画等のアフレコ実習をし、表現力や技術力を学ぶ。1年生で学んだことを踏まえ、より実践的な授業を行う。						
学習到達目標	表現者として演技力を磨くことを第一に、社会人としての常識や対人関係の有り方など、業界及び社会で必要とされる人材になることを目標とする。声優として即戦力になれるよう外画アテレコ、アニメアフレコ等の実習を行う。表現力を身につけ、滑舌をよくする。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、発声・滑舌の自主トレーニングを毎日30分はする。配布された台本を読み込み、内容を理解しセリフを練習する。(60分～)						
評価方法	出席率20%・授業態度30%・実習実技50%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	アニメアフレコ			マイク前での台本の持ち方やマイクポジション、マイクワーク等の復習。スムーズな収録進行を目標とする。			
2	アニメアフレコ			役作り。性格、年齢、職業など役を構成する情報を全て拾い出し分析する。			
3	アニメアフレコ			台本の読解を深める。台本の構造を論理的に分析し、セリフの意図・感情・関係性を言語化し、演技に接続する読解力の習得を目標とする。			
4							
5	アニメアフレコ			基礎を重視し、会話をするという基本的なことを意識的に且つ無意識のように聞こえる演技力を身につけられるように繰り返し練習をする。感情解放をしっかりとできるようにする。状況、目的、感情、関係性の分析をし、再現可能な技術を習得する。滑舌、鼻濁音、アクセントに注意する。			
6							
7							
8	外画アフレコ			アニメと外画の違いを再認識させる。外画はより自然な会話が求められる。自然な会話を習得する。			
9	外画アフレコ			台本に記載された状況・人物関係・目的を整理し、各要素が演技にどのように影響するかを具体的に説明できるようにする。映像からも役者が何を考え、どういった表現をしているのか分析する。そうすることで、視線・表情・無言の動きからキャラクターの意図を読み取り、セリフに反映できる。			
10							
11							
12	外画アフレコ			役者の身体感覚を意識させ再現をさせる。呼吸(吸気・呼気・乱れ)を演技に反映させ、状況(疲労・緊張等)に応じた自然な発声ができる。動作に伴う身体的負荷(重さ・速度・衝撃)を声で表現し、視覚情報と一致した演技ができる。			
13							
14							
15	前期まとめ			会話をする、感情をだすといったことをどれだけ出来るようになったか確認する。			
16	アニメアフレコ			前期の授業を踏まえて進めていく。作品を変え、台本の読解、役作りの掘り下げ等、より理解度を上げていく。読解力の習得。			
17							
18	アニメアフレコ			より実践を意識し、キャラクターを演じることに責任を持たせる。今自分ができうる最高の演技をするためにはどうするかを生徒自身に考えさせ、常に頭を使った演技ができるようにする。滑舌、鼻濁音、アクセントに注意する。			
19							
20							
21	アニメアフレコ			録って聞くを繰り返し、今自分に何が足りていないのかを確認する。発声、滑舌、表現力、読解力の向上。			
22							
23							
24	外画アフレコ			もう一度映像のチェックをするところから細かく指導していく。観察力の向上。			
25	外画アフレコ			外画アフレコ収録現場における一連の流れ(準備・テスト・本番・リテイク・確認)を理解し、各工程において求められる行動および役割を具体的に説明できる。また、模擬環境において適切に行動できるようにする。対応力の習得。			
26							
27	外画アフレコ			現場で起こりうる駄目だしやキャラ設定の変更などを生徒にあたえ、いかに柔軟に対応できるかを練習する。声優にとって必要な瞬発力を養う。滑舌、鼻濁音、アクセントに注意する。			
28							
29							
30	後期まとめ			プロがおこなう収録の流れと同じ形でアフレコを行う。2年間学んでどれだけのが身についたか確認する。			

授業科目名	ラジオ番組制作(2)		担当者名	原田晃			
			実務経験	アニメ・映画・テレビジョン経験有り。			
教科書 教材	各種資料(トーク素材)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
	アクセント辞典	2					
		時間数	声優科	2年	通年	必修	講義・演習
授業概要	本授業では、声優として必要な「ラジオトーク力」を中心に、番組構成・企画・掛け合い・お便り対応などの実践を通して、ラジオ番組を成立させるための総合的なスキルを習得する。						
学習到達目標	ラジオ番組の構造(オープニング・本編・エンディング)、トークの基本構成、リアクションや掛け合いの役割を理解し、ラジオにおける表現方法や進行の基本を説明できるようにする。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、授業内容の定着のため、ラジオ番組の視聴を通してトークや構成を分析するとともに、自身の発話を録音・確認し、トーク力の向上に努めること。						
評価方法	出席率20%・授業態度30%・実習実技50%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	■第1ユニット:ラジオ理解 【1週目】・導入:授業目的／評価説明・視聴:声優ラジオ・分解講義:OP／本編／ED・役割・グループ分析:面白い要素を書き出し(テンポ／関係性／話題)			【到達目標】 【基礎】ラジオ番組の構造を理解し説明できる 【応用】番組の面白さを要素分解できる 【実践】分析を踏まえたトークができる 【習得できる能力】・ラジオ分析力・トーク設計意識			
2	【2週目】・前回の分析内容を整理・共有・各自「再現する面白さ」を1つ決定・1分トークを設計(構成メモ作成)・トーク実演(録音)・講評:分析がトークに反映されているか確認			【到達目標】 【基礎】マイクワークを理解できる 【応用】安定した音声で話せる 【実践】感情を音声で伝えられる 【習得できる能力】・ラジオ用発声・音声コントロール			
3	■第2ユニット:マイク前トーク 【1週目】・マイクワーク(距離・角度・ノイズ対策)の確認・距離違いで同一セリフを録音し比較・角度違いで音の変化を確認・聞き比べを行い「聞きやすい条件」を言語化			【到達目標】 【基礎】言葉のみの表現理解 【応用】状況説明ができる 【実践】伝わる語りができる 【習得できる能力】・描写力・伝達力			
4	【2週目】・同一セリフを「喜怒哀楽」で収録・ペアで聞き合い、感情が伝わっているか検証・伝わらない場合は原因分析(声量・間・語尾)・修正して再収録			【到達目標】 【基礎】リアクション理解 【応用】会話で使える 【実践】感情差を出せる 【習得できる能力】・反応力・会話持続力			
5	■第3ユニット:言語表現 【1週目】・「見えない情報を言葉で伝える」考え方を確認・身近なものを説明するトーク実演・聞き手が内容を再現し、伝達精度を確認・伝わらなかった部分を分析			【到達目標】 【基礎】構成理解 【応用】トーク組立 【実践】1分トーク 【習得できる能力】・構成力・即興力			
6	【2週目】・状況説明(事件・場所・人物)に発展・キャラクター設定を加えて説明トーク・聞き手から具体的フィードバック・改善後に再実演			【到達目標】 【基礎】関係性理解 【応用】役割分担 【実践】会話成立 【習得できる能力】・掛け合い力・役割理解			
7	■第4ユニット(7～8回):リアクション 【1週目】・リアクションの種類(相槌・強調)解説・同じ話に対して違うリアクション練習			【到達目標】 【基礎】台本理解 【応用】作成 【実践】完成 【習得できる能力】・台本運用力			
8	【2週目】・片方が話し手、もう片方はリアクションのみ・感情指定(驚き・怒り・嬉しさ)・会話として成立させる			【到達目標】 【基礎】台本理解 【応用】進行 【実践】番組完成 【習得できる能力】・総合力			
9	■第5ユニット(9～10回):フリートーク 【1週目】・導入→展開→締めの型解説・短いメモを作ってトーク練習			【到達目標】 【基礎】お便り理解 【応用】展開 【実践】トーク 【習得できる能力】・展開力			
10	【2週目】・お題カードで1分トーク・時間内にオチをつける ・録音→講評			【到達目標】 【基礎】お便り理解 【応用】展開 【実践】トーク 【習得できる能力】・展開力			
11	■第6ユニット(11～12回):キャラトーク 【1週目】・キャラ設定シート作成(年齢・性格など)・同じ内容を“素／キャラ”で話し分け			【到達目標】 【基礎】お便り理解 【応用】展開 【実践】トーク 【習得できる能力】・展開力			
12	【2週目】・キャラ固定でフリートーク・途中で設定変更→対応 ・講評			【到達目標】 【基礎】お便り理解 【応用】展開 【実践】トーク 【習得できる能力】・展開力			
13	■第7ユニット(13～14回):掛け合い 【1週目】・関係性(友人・上下)設定・役割(ボケ／ツッコミ)確認			【到達目標】 【基礎】お便り理解 【応用】展開 【実践】トーク 【習得できる能力】・展開力			
14	【2週目】・設定を変えて同じ会話を実演・第三者が関係性を当てる ・講評			【到達目標】 【基礎】お便り理解 【応用】展開 【実践】トーク 【習得できる能力】・展開力			
15	前期まとめ ・これまでの要素を整理(構成／リアクション／キャラ／掛け合い)・実践			総合力を習得する。			
16	■第8ユニット:ミニ番組① 【1週目】・OP／本編／EDの簡易構成を作成・ペアで番組内容を決定・流れに沿ってリハーサル			【到達目標】 【基礎】お便り理解 【応用】展開 【実践】トーク 【習得できる能力】・展開力			
17	【2週目】・通して番組実演(録音)・試聴してテンポ・間・構成を確認・改善点を洗い出し共有			【到達目標】 【基礎】お便り理解 【応用】展開 【実践】トーク 【習得できる能力】・展開力			
18	■第9ユニット:構成 【1週目】・番組構成の基本(時間配分・山の作り方)を整理・既存番組を分解し構成を分析・3分番組の構成案を作成			【到達目標】 【基礎】お便り理解 【応用】展開 【実践】トーク 【習得できる能力】・展開力			
19	【2週目】・構成案をもとにトークに落とし込む・実演し、構成通りに進んでいるか検証・ズレを修正			【到達目標】 【基礎】お便り理解 【応用】展開 【実践】トーク 【習得できる能力】・展開力			
20	■第10ユニット:企画・オープニング 【1週目】・ラジオ企画の基本パターンを確認・個人で複数の企画案を作成・グループでブラッシュアップ			【到達目標】 【基礎】お便り理解 【応用】展開 【実践】トーク 【習得できる能力】・展開力			
21	【2週目】・30秒オープニングトーク作成・実演して「つかみ」が機能しているか確認・改善して再実演			【到達目標】 【基礎】お便り理解 【応用】展開 【実践】トーク 【習得できる能力】・展開力			
22	■第11ユニット:お便り 【1週目】・お便りの読み方(情報整理・強調)を確認・リアクションのみで返す練習・感情の乗せ方を調整			【到達目標】 【基礎】お便り理解 【応用】展開 【実践】トーク 【習得できる能力】・展開力			
23	【2週目】・お便り内容を起点にトークを展開・話題を広げる・深掘る練習・会話が止まった原因を分析し改善			【到達目標】 【基礎】お便り理解 【応用】展開 【実践】トーク 【習得できる能力】・展開力			
24	■第12ユニット:台本 【1週目】・構成台本を作成(流れ・コーナー設計)・内容を整理し第三者に説明できる形にする			【到達目標】 【基礎】お便り理解 【応用】展開 【実践】トーク 【習得できる能力】・展開力			
25	【2週目】・進行台本に落とし込む(セリフ・進行)・読み合わせを行い、不自然な箇所を修正			【到達目標】 【基礎】お便り理解 【応用】展開 【実践】トーク 【習得できる能力】・展開力			
26	■第13ユニット:ミニ番組② 【1週目】・台本をもとにリハーサル・テンポ・役割・流れを確認・問題点を洗い出し修正			【到達目標】 【基礎】お便り理解 【応用】展開 【実践】トーク 【習得できる能力】・展開力			
27	【2週目】・本番収録・試聴し、構成・演技・掛け合いを総合チェック・講評			【到達目標】 【基礎】お便り理解 【応用】展開 【実践】トーク 【習得できる能力】・展開力			
28	■第14ユニット:番組制作 【1週目】・グループで番組企画を決定・役割分担(進行・トーク・構成)・台本作成と確認			【到達目標】 【基礎】お便り理解 【応用】展開 【実践】トーク 【習得できる能力】・展開力			
29	【2週目】・通し収録・番組として成立しているかチェック・必要に応じて部分的に録り直し			【到達目標】 【基礎】お便り理解 【応用】展開 【実践】トーク 【習得できる能力】・展開力			
30	後期まとめ			ラジオパーソナリティとしての総合力			

授業科目名	ナレーション実習(2)		担当者名	武蔵亜矢子						
			実務経験	ナレーターとして活動中						
教科書 教材	プリント(資料・課題・漢字)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法			
		4	声優科	2年	通年	必修	講義・演習			
		時間数 120								
授業概要	毎時間、ナレーション課題を用意し演習を重ねる。また台本読みに欠かせない漢字の読み書きを今一度学ぶ									
学習到達目標	ボイスサンプルの完成・現場に出た際に授業で学んだことを活かし実践できる									
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、自主的に発声練習や体力作りを行い、課題に対し事前にアクセントの確認や練習を行うことで授業に備えること。									
評価方法	出席率15%・課題提出15%・筆記試験30%・実技試験40%									
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など						
1	オリエンテーション・発声練習の重要性の確認			授業内容確認・発声練習の大切さを改めて認識する						
2	発声練習用課題のアクセントチェック			アクセント辞典の引き方を復習し引くことを癖付ける						
3	ナレーターとしての考え方や原稿の向き合い方についての講義			曖昧な考え方ではなく具体的に目標を定める						
4	ナレーションの種類について			内容・状況に応じた表現を常に意識できる						
5	収録:課題①CMナレーション			どのような商品なのか伝わる方法を考える						
6				漢字の読み書き①						
7	収録:課題②映画・予告ナレーション			短い秒数の中で如何に内容を伝えるのか考える						
8				漢字の書き取り②						
9	収録:課題③番組ナレーション			番組ジャンルに応じて読み分ける技を磨く						
10				漢字の読み書き③						
11	収録:課題④紹介・説明ナレーション			紹介内容を自分が理解しアプローチを工夫する						
12				漢字の読み書き④						
13	収録:課題⑤案内ナレーション			どんな場所・案内する理由を考え伝える						
14				漢字の読み書き⑤						
15	前期:実技試験・筆記試験			前期の集大成、現時点の実力を確認						
16	ボイスサンプル制作について			作成の必要性・制作スケジュールの確認						
17	ナレーション課題を収録			経験を積み重ね、瞬時にアプローチの仕方を学ぶ						
18	↓前期を踏まえ、様々なジャンルに数多く挑戦する ※並行してサンプル原稿の作成を始める			※滑舌は甘くないか・発音は明瞭か						
19				イントネーションは正確か						
20				間の取り方や文節の区切り方はおかしくないか						
21				読むではなく「伝える・語る」ことを念頭に						
22				独りよがりにならないよう、常に相手を意識する						
23				また、自分の声をよく聴き分析する						
24				ボイスサンプル作成開始			一人一人の特徴を活かし原稿を作成			
25							※BGMの有無(選曲)			
26	※如何に相手に興味を持ってもらえるか、									
27	原稿の内容・並べる順番など構成を考え									
28	読みの雰囲気等を考慮し収録に臨む									
29	完成品鑑賞会			客観的に分析し、お互いに意見を伝えあう						
30	後期:実技試験・筆記試験			集大成、自分がどれほど成長できたかを示す						

授業科目名	ダンスレッスン		担当者名	玉手江理子			
			実務経験	ダンスインストラクター、コレオグラファー、バックダンサー、スポーツインストラクターの経験有り			
教科書 教材	教科書なし	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数 60	声優科	2年	通年	必修	実習
授業概要	ストレッチや柔軟等の基礎トレーニングとアイソレーションやダウンアップのリズムトレーニングを行い、様々な身体の動かし方を習得し、音楽に合わせて踊れる楽しさを実感してもらう。						
学習到達目標	身体の柔軟性や筋力の向上、音楽に合わせて手や足だけではなく全身でリズムを取れる技術を習得してもらう。習得度によってはステップ等を組み合わせた振付を覚える、かつ自分たちでも振付を考え踊れるような技術をつける。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、現場を想定した立ち居振る舞いや自主トレーニングを行い、授業外でも表現者としての体調管理と感性向上に努めること。						
評価方法	出席率70%、体力テスト15%、実技試験10%、授業態度5%、計100%の総合評価						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	ウォーミングアップ			現段階の自身の体力を測る体力テストを行う			
2	ウォーミングアップ			用語説明と手拍子足踏み等簡単なリズム取りの練習			
3	アイソレーション			首、肩、胸、腰、箇所ずつ動かせるようになる			
4	アイソレーション			前回の応用含め、早いリズムでも練習する			
5	ダウン			「ダウン」というダンス基礎の動きを練習する			
6	ダウン			「ダウン」の動きに手や足の要素を加える			
7	アップ			「アップ」というダンス基礎の動きを練習する			
8	アップ			「アップ」の動きに手や足の要素を加える			
9	ダウン&アップ			ダウンとアップの切替方、取り方の違いを理解し練習する			
10	ステップ			簡単な足のステップ等、名前を覚えて実際に動いてみる			
11	ステップ			前回よりも足先を細かく使うステップを練習する			
12	ステップ			ジャンプやキック等も含めたステップを練習する			
13	基礎振付			ダウン、アップ、ステップ等を組み合わせて実際に踊る			
14	基礎振付			前回の振付の練習＋学生自身で新たに振付を作ってみる			
15	前期まとめ			基礎振付で作り上げたダンスの成果発表(実技試験)			
16	ウォーミングアップ			現段階の自身の体力を測る体力テストを行う			
17	ヒップホップダンス1			前期で培った基礎を活かし「ヒップホップダンス」を練習			
18	ヒップホップダンス2			前回行ったダンスの続き、新しい振付を踊る			
19	ヒップホップダンス3			学生自身でダンスの振付を追加で考えて踊ってみる			
20	ヒップホップダンス4			4週に渡り練習してきたヒップホップダンスの成果発表			
21	スタイルダンス1			より現代的なジャンル「スタイルダンス」を練習			
22	スタイルダンス2			前回行ったダンスの続き、新しい振付を踊る			
23	スタイルダンス3			学生自身でダンスの振付を追加で考えて踊ってみる			
24	スタイルダンス4			4週に渡り練習してきたスタイルダンスの成果発表			
25	ハウスダンス1			足のステップが主となる「ハウスダンス」を練習			
26	ハウスダンス2			前回行ったダンスの続き、新しい振付を踊る			
27	ハウスダンス3			3週に渡り練習してきたハウスダンスの成果発表			
28	応用振付			前期後期を通して覚えた動きを組み合わせる			
29	応用振付			学生自身でダンスの振付を追加で考えて踊ってみる			
30	後期まとめ			応用振付で作り上げたダンスの成果発表(実技試験)			

授業科目名	取材実習		担当者名	三浦 貴子			
			実務経験	企業団体教育研修・秘書検定面接審査員			
教科書 教材	NHK発音アクセント辞典 プリント資料配付	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	声優科	2年	通年	必修	実習
		60					
授業概要	パーソナリティとしてではなく、取材対象をみつけ主役として音声番組にまとめる。取材の種類、基礎をおさえ、アポイントメント取り、テーマに沿ったインタビュー、アンケート、資料収集などを行う。						
学習到達目標	世の中が望んでいるテーマを見つけ、深く掘り下げる発想力、放送倫理、さらに、アポイントメントを取る面から、社会常識やコミュニケーション能力、責任感を身につける。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、インターネット、書籍、新聞、資料、人脈口コミ情報の事前調査を進め理解を深めておく。日頃から情報収集のアンテナを張り、インプット、アウトプットの感性を澄ませていく。また、授業時間内ではアポイントメント取り、取材が難しい場合は授業時間を超えて取材を行う。						
評価方法	課題作品70% 授業態度(発想力、行動力、受講姿勢、協調性等、総合的に判断)30%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	番組制作の基本			情報収集、取材方法の基本を説明できる			
2	情報収集・インターネット篇			必要な情報を早く正確に収集できる			
3	情報収集・書籍篇			図書館が利用できる 深く資料を読みとく			
4	資料のまとめかた			情報の取捨選択ができる			
5	番組収録			自分のことばで集めた資料を番組にまとめる			
6	試聴			全員で試聴 反省点 改善点をみつける			
7	情報集酒・アンケート篇			情報収集手段としてアンケートについて学ぶ			
8	アンケート実施			テーマに沿ったアンケート実施する			
9	番組収録			アンケート結果をもとに番組を作る			
10	試聴			全員で試聴 反省点 改善点をみつける			
11	インタビューについて			挨拶から本題への導き街の声を集める			
12	街頭インタビュー実施			街の声を集めて、実のある素材を作る			
13	番組収録			前回の素材を番組として仕上げる			
14	試聴			全員で試聴 反省点 改善点をみつける			
15	インタビュー練習			1対1でのインタビューのマナーやコツを掴む			
16	アポイントメントの取り方			電話、取材依頼書等のマナーを説明できる			
17	テーマ選考 アポ取り			テーマに沿った対象者に依頼できる			
18	情報収集・インタビュー対象者篇			必要な情報や素材を集めることができる			
19	素材編集			インタビュー素材の正しい取捨選択ができる			
20	試聴			全員で試聴 反省点 改善点をみつける			
21	グループ作品・テーマ選考 構成 企画立案			チームで協調し企画をたてる			
22	グループ作品・資料収集 情報収集			対象者を理解し興味深い情報を集める			
23	グループ作品・取材			対象者を理解し魅力を引き出す			
24	グループ作品・素材編集			取材して集めた素材の取捨選択ができる			
25	グループ作品・スタジオ収録			集めた素材を自身の話術でまとめる			
26	グループ作品・試聴			全員で試聴 反省点 改善点をみつける			
27	個人作品・企画立案			世の中が求める情報を見つけられる			
28	個人作品・取材			対象者が魅力的に映る取材を行う			
29	個人作品・収録			個性の表れる作品を完成させる			
30	個人作品・試聴			全員で試聴 反省点 改善点をみつける			

授業科目名	卒業制作		担当者名	原田晃			
			実務経験	アニメ・映画・テレビジョン経験有り。			
教科書 教材	配布資料(台本等) アクセント辞典	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	声優科	2年	通年	必修	講義・演習
授業概要	音声作品の制作を通して、声優としての表現力に加え、企画・脚本・収録・編集・発信までを一貫して行う実践的な制作者力を習得する。「役として演じる力」だけでなく、「作品として成立させる力」「他者と協働して制作を進める力」を身につけることを目的とする。						
学習到達目標	共同作業を行うことでコミュニケーション能力を身につける。想像力を養う。滑舌の向上。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、音声作品やドラマCD、ボイスドラマなどを視聴し、ストーリー構成や演技、音響演出の特徴を分析する。また、自身の演技や収録音声を録音・確認し、発話の明瞭さや感情表現、掛け合いの自然さを振り返り、改善を行う。台本制作や企画については授業外でも推敲を行い、完成度を高める。						
評価方法	出席率20％・授業態度30％・実習実技50％						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	第1ユニット:作品理解・制作導入 1週目・卒業制作の目的、流れ、評価基準を説明。音声作品の事例を視聴し、作品の構成や演出の特徴を確認する。「音声だけで伝える作品」に必要な要素を整理する。 2週目・制作テーマの候補を出す。個人またはグループで制作の方向性を決める。テーマに合わせて、作品の長さ、人数、雰囲気、ジャンルを決定する。			提示された作品事例をもとに、音声作品の構成(導入・展開・結末)を資料を参照しながら説明できる。 自身の制作テーマを設定し、口頭で他者に説明できる。 ・作品分析力(構造を分解して捉える力)・企画発想力(テーマを設定する力)			
2							
3	第2ユニット:企画設計 1週目・作品のコンセプト、対象、見せ場を整理する。ログラインや簡単なあらすじの作り方を学ぶ。企画として成立する条件を確認する。 2週目・企画書を作成する。作品の目的、内容、登場人物、制作意図を言語化する。発表と講評を通して、企画の明確さを確認する。			企画書の構成要素を理解し説明し、テーマに基づきログラインとあらすじを作成できる。 作品の方向性が明確な企画書を完成させ提出できる。 ・企画構成力・コンセプト言語化能力			
4							
5	第3ユニット:キャラクター設計 1週目・登場人物の役割、性格、目的、関係性を整理する。キャラクター設定シートを作成する。声質、話し方、テンションの方向を考える。 2週目・キャラクターの声の出し方、セリフの言い回し、間の取り方を確認する。キャラ同士の関係性が会話にどう出るかを実演する。			キャラクター設定の要素を理解して説明でき、設定に基づいた人物像をシートに整理できる。 キャラクターに応じた話し方・声の方向性を実演できる。 ・キャラクター構築力・声優的役作り力			
6							
7	第4ユニット:ストーリー構成 1週目・三幕構成や起承転結など、物語の基本構造を学ぶ。場面の数、展開の流れ、感情の動きを整理する。作品全体の流れをプロットとしてまとめる。 2週目・各場面の目的を明確にし、話のつながりを調整する。盛り上げりの位置、転換点、終わり方を確認する。			物語構造(三幕構成等)を理解し説明でき、起承転結のあるストーリーを構築できる。 ・ストーリー設計力・展開構築力			
8							
9	第5ユニット:脚本基礎 1週目・脚本の書式、ト書き、セリフ、場面転換の書き方を学ぶ。会話が自然に聞こえるセリフの作り方を確認する。短い場面の脚本を書いてみる。 2週目・短いシーンを実際に書き、講評を受ける。情報の入れ方、セリフの長さ、説明のバランスを修正する。			脚本形式(ト書き・セリフ)の基本を理解できる。短いシーンの脚本を完成させることができる。 ・セリフ構築力 ・脚本基礎力			
10							
11	第6ユニット:脚本発展 1週目・作品全体の脚本構成を組み立てる。シーンごとの役割とつながりを調整する。セリフがキャラクターに合っているかを確認する。 2週目・脚本全体を完成させる。読み直しを行い、不要な説明や不自然な会話を修正する。提出可能な形に整える。			全体構成と各シーンの役割を理解でき、完成度の高い脚本を仕上ることができる。 ・脚本統合力 ・構成調整力			
12							
13	第7ユニット:演技設計 1週目・脚本を読み、各キャラクターの感情や意図を整理する。どこで強く言うか、止めるか、間を取るかを検討する。演技プランを記入する。 2週目・セリフごとの演技意図を確認しながら読み合わせを行う。同じセリフでも感情の違いで印象が変わることを体感する。			台本からキャラクターの感情・意図を読み取ることができ、セリフごとの演技プランを作成、意図を持った読み合わせを実演できる。 ・台本読解力 ・演技設計力			
14							
15	前期まとめ 後期に向けてリハーサル			作品を理解し、共通認識を持つことができる。 ・読解力			
16	第8ユニット:リハーサル 1週目・配役を確定し、部分的に読み合わせを行う。台詞の言い回し、テンポ、受け方を確認する。不自然な箇所を修正する。 2週目・通しリハーサルを行う。立ち位置、話す順番、受け答えの流れを確認する。本番で止まりそうな箇所を事前に洗い出す。			配役と役割を理解し、掛け合いの中で相手のセリフを受けて反応できる。 部分的にシーンを成立させることができる。 ・掛け合い演技力 ・アンサンブル力			
17							
18	第9ユニット:収録準備 1週目・収録の流れ、役割、機材の使い方を確認する。収録時の注意点、セリフミス時の対応を学ぶ。収録進行表を作成する。 2週目・本番を想定した最終リハーサルを行う。マイク前での立ち方、声の出し方を確認する。録り直しや修正の必要箇所を把握する。			収録の流れと注意点を理解できる。収録に向けた準備を整えられる。 ・現場理解力 ・段取り力			
19							
20	第10ユニット:収録① 1週目・本番収録を行う。演技を止めずに最後まで進める。収録中の指示に対応する。 2週目・収録素材を確認し、足りない箇所や修正が必要な部分を整理する。必要に応じて再収録を行う。			収録時の基本的なルールを理解し、収録中の指示に対応しながら演技できる。 ・収録対応力 ・現場適応力			
21							
22	第11ユニット:収録② 1週目・追加収録や差し替え収録を行う。セリフの抜け、音の乱れ、演技の不足を補う。素材の整理を行う。 2週目・使う素材を選別し、編集に回せる形にまとめる。収録の完成度を確認する。			不足部分を判断し修正できる。 完成に必要な素材を揃えられる。 ・修正対応力			
23							
24	第12ユニット:編集 1週目・2週目 不要部分のカット、音量調整、無音整理を行う。聞きやすい流れになるように編集する。会話のつながりが自然かを確認する。			音声編集の基本操作を理解できる。 作品として成立する音声を完成させられる ・音声編集力 ・作品仕上がり力			
25							
26	3週目・4週目 BGMや効果音を必要に応じて加える。音のバランスを整え、作品として完成度を高める。試聴しながら修正する。						
27							
28	第13ユニット:公開準備 1週目・YouTube公開に必要な準備を学ぶ。タイトル、サムネイル、説明文を作成する。作品の見せ方を整理する。 2週目・公開設定を確認する。誤字脱字、音量、表記の最終チェックを行う。公開前の最終確認を行う。			タイトル・サムネイルを作成できる。 公開準備を整えられる。 ・発信設計力 ・見せ方設計力			
29							
30	後期まとめ 完成した作品を視聴。			作品評価の観点を理解し、自他作品を分析できる。 ・自己分析力			

			※第2学年第1学期	VA2-07			
授業科目名	オーディション対策(2)		担当者名	櫻井 潤			
			実務経験	音楽制作会社「サウンドレポリューション」代表			
教科書 教材	・配布資料(プリント)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数					
120							
授業概要	声優(芸能)プロダクションと連携しながら下記の内容の授業を実施する。 1. オーディションの全体像について 2. セルフプロデュースの仕方について 3. 各種プロダクションのオーディション(職業実践専門課程教育の一環)を実施。						
学習到達目標	1. 自己PRを1分程度にまとめることができる。 2. プロフィールシート(セルフプロデュース含む)を作成できる。 2. 台本読解(ナレーション・セリフ)ができる。 3. オーディション審査員との適切なコミュニケーションをとることができる。 4. 各種プロダクションのオーディション(声優養成所を含む)に合格する。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、オーディション原稿(セリフ、ナレーションなど)を事前練習する。オーディションでう(ワンコーラス)を暗誦する。						
評価方法	各プロダクションからの評価40%、実技試験及び課題提出40%、出席率等20%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	・自己PR原稿作成 下記のポイントをもとに作成 ①「結論ファースト」で始める ②「具体的な根拠」を入れる ③「声優としてどう活かすか」を語る ④「短く・明確に」 ⑤「自分の強み」(他の人と被らない)を入れる			左記のポイントをもとに、自己PRを原稿用紙400字程度にまとめることができる。(自己PRを言語化する)			
2	・自己PRの実践 下記のポイントを元にスピーチする。 ①「話すだけではなく「聞ける」意識 ②抑揚(メリハリ)をつける ③話すスピードは「やや遅め」で早口にならない ④表情と声を一致させる ⑤視線をしっかりとる			左記のポイントをもとに、ストップウォッチを使用し、自己PRを1分程度でスピーチできる。			
3	・プロフィールシートの作成 下記のポイントをもとに作成 ①「一目で「方向性」がわかる ②写真は「作品」レベルで考える ③「特技・趣味」は武器化する。④「経歴」をしっかりと伝える			左記のポイントをもとにプロフィールシートを完成させる。			
4	・TVナレーション(オーディション課題)の対応の仕方 下記のポイントをもとに課題に取り組む ①「映像」を邪魔しない ②「句読点以上に」間を意識 ③「語尾」の印象できる ④「視聴者」に伝える ⑤「客観的」にとらえる			左記のポイントをいれてナレーション原稿を読み上げることができる。			
5	仙台CAT-V(株)(職業実践専門課程連携企業)のオーディション実施【1】 →番組ナレーションオーディション			仙台CAT-V(株)と連携をとり評価を頂く。 オーディション通過者については実際の番組ナレーションを担当する。			
6	・MCオーディションの対応の仕方【1】 下記のポイントをもとに課題に取り組む ①進行力(流れを作れるか) ②聞きやすさ(声・滑舌・スピード) ③対応力(イレギュラーに強い) ④空気感(場を明るくできるか) ⑤互安心感(任せられるか)			左記のポイントをいれてMCができる。 実践の場として、下記のイベントにMCとして参加する。 ①とおきの音楽祭 ②定禅寺ストリートジャズフェスティバル			
7	・(株)エフエクト(職業実践専門課程連携企業)オーディション実施 →イベントMCオーディション			(株)エフエクトと連携をとり評価を頂く。 オーディション通過者については、実際の現場でMCを担当する。			
8	・企業用ナレーション原稿を考える ①「一番伝えたいこと」を1つに絞る ②「冒頭3秒」で興味をつかむ ③言葉は「シンプル＆短く」 ④リズムとテンポを設計する ⑤「サウンドロゴ・社名」は丁寧に表現			左記のポイントとிரいれてナレーション原稿(15秒～30秒)を完成させる。			
9	・(有)音屋(職業実践専門課程連携企業)のオーディション実施 →CMナレーションオーディション (有)音屋のCM原稿を考えて発表する。			(有)音屋と連携をとり評価を頂く。 オーディション通過者は、CMとして採用する。			
10	・(株)オンサイト(職業実践専門課程連携企業)のオーディション実施 →CMナレーションオーディション (株)オンサイトのCM原稿を考えて発表する。			(有)オンサイトと連携をとり評価を頂く。 オーディション通過者は、CMとして採用する。			
11	・ボーカル映像審査収録し大手レベルに提出 下記のポイントをもとに課題に取り組む ①世界観(コンセプト)を決める ②表情をつける ③個性(声質、ビジュアル、表現の仕方など)をつける			左記のポイントを取り入れて映像収録を完成させる。 オーディション通過者は、デビューのチャンスがある。			
12	・オンラインボーカルチェックオーディション(大手レベル)に応募する 下記のポイントをもとに課題に取り組む ①ビッチ(音程)の安定 ②リズム感(グループ) ③声質(個性)を出す ④無理に難しい曲を選ばない ⑤Aメロ～サビの「差」をつける ⑥言葉(歌詞)を大事にする ⑦表情をつける。			左記のポイントを取り入れてうたうことができる。 オーディション通過者は、デビューのチャンスがある。			
13	・舞台系台詞の対応の仕方【1】 下記のポイントをもとに課題に取り組む ①「相手に届ける」方向を出す ②声は「前に」遠くへ ③「間(ま)」で芝居を作る ④ 感情は「少し大きめに」 ⑤ 身体と連動させる			左記のポイントをいれて舞台系台詞ができる。 また、声優プロダクションの担当者からアドバイスをうけて向上できる。			
14	・舞台系台詞の対応の仕方【2】 上記の継続			左記のポイントをいれて舞台系台詞ができる。 また、声優プロダクションの担当者からアドバイスをうけて向上できる。			
15	・【前期末試験】模擬オーディション実施 ①自己PR(1分以内) ②歌(ワンコーラス) ③原稿読み(台詞、ナレーションなど) ④質疑応答			左記の①～④を表現できる。			
16	・声優プロダクションの選び方について 下記のポイントに注意して選定する。 ①規模より「相性」を重視 ②所属声優の「層」を見る ③仕事のジャンルを確認 ④養成所・預かり制度の内容 ⑤マネジメント体制 ⑥オーディション機会の量 ⑦現実的な難易度 ⑧複数受けて比較する(重要)			左記のポイントをもとに自分が所属したいプロダクションのリストを完成させる。			
17	・仙台CAT-V(株)(職業実践専門課程連携企業)のオーディション実施【2】 →番組ナレーションオーディション			仙台CAT-V(株)と連携をとり評価を頂く。 オーディション通過者については実際の番組ナレーションを担当する。			
18	・アニメ系台詞の対応の仕方【1】 下記のポイントをもとに課題に取り組む ①キャラ設定を具体化する ②第一声で「キャラを提示」 ③感情はリアルより「少し強め」 ④語尾でキャラを作る ⑤「会話」として演じる ⑥テンポとリズムを意識 ⑦メリハリ(強弱)をつける ⑧無理な作り声を選ばない ⑨音としての魅力を意識 ⑩視線とイメージ			左記のポイントをいれてアニメ系台詞ができる。 また、声優プロダクションの担当者からアドバイスをうけて向上できる。			
19	・アニメ系台詞の対応の仕方【2】 上記の継続			左記のポイントをいれてアニメ系台詞ができる。 また、声優プロダクションの担当者からアドバイスをうけて向上できる。			
20	・アニメ系台詞の対応の仕方【3】 上記の継続			左記のポイントをいれてアニメ系台詞ができる。 また、声優プロダクションの担当者からアドバイスをうけて向上できる。			
21	・MCオーディションの対応の仕方【2】…第6週の続編 下記のポイントをもとに課題に取り組む ①進行力(流れを作れるか) ②聞きやすさ(声・滑舌・スピード) ③対応力(イレギュラーに強い) ④空気感(場を明るくできるか) ⑤互安心感(任せられるか)			左記のポイントをいれてMCができる。 実践の場として、下記のイベントに参加する。 ・青葉区まつり			
22	・CMナレーションの対応の仕方 ①意図を読む ②ディレクション対応力(CM現場は修正前提のため)③複数パターンを用意する ④「商品名・社名」は最優先で丁寧に ⑤タイム管理(秒数感覚)			左記のポイントとிரいれてナレーションができる。			
23	・(株)オンサイト(職業実践専門課程連携企業)のオーディション実施 →CMナレーションオーディション			(有)オンサイトと連携をとり評価を頂く。 オーディション通過者は、企業CMナレーションを収録する。			
24	・声優プロダクションと連携しオーディションを実施【1】 オーディション内容は下記の通り。 ①自己PR(1分以内) ②歌(ワンコーラス) ③原稿読み(台詞、ナレーションなど) ④質疑応答			声優プロダクションオーディション担当者からアドバイスを個別にうけ、表現者として必要な知識を得る。 下記の①～③の合格を目指す。 ①所属合格 ②マネジメント対象合格 ③養成所合格			
25	・声優プロダクションと連携しオーディションを実施【2】 オーディション内容は下記の通り。 ①自己PR(1分以内) ②歌(ワンコーラス) ③原稿読み(台詞、ナレーションなど) ④質疑応答			声優プロダクションオーディション担当者からアドバイスを個別にうけ、表現者として必要な知識を得る。 下記の①～③の合格を目指す。 ①所属合格 ②マネジメント対象合格 ③養成所合格			
26	・声優プロダクションと連携しオーディションを実施【3】 オーディション内容は下記の通り。 ①自己PR(1分以内) ②歌(ワンコーラス) ③原稿読み(台詞、ナレーションなど)④質疑応答			声優プロダクションオーディション担当者からアドバイスを個別にうけ、表現者として必要な知識を得る。 下記の①～③の合格を目指す。 ①所属合格 ②マネジメント対象合格 ③養成所合格			
27	・声優プロダクションと連携しオーディションを実施【4】 オーディション内容は下記の通り。 ①自己PR(1分以内) ②歌(ワンコーラス) ③原稿読み(台詞、ナレーションなど)④質疑応答			声優プロダクションオーディション担当者からアドバイスを個別にうけ、表現者として必要な知識を得る。 下記の①～③の合格を目指す。 ①所属合格 ②マネジメント対象合格③養成所合格			
28	・声優プロダクションと連携しオーディションを実施【5】 オーディション内容は下記の通り。 ①自己PR(1分以内) ②歌(ワンコーラス) ③原稿読み(台詞、ナレーションなど)④質疑応答			声優プロダクションオーディション担当者からアドバイスを個別にうけ、表現者として必要な知識を得る。 下記の①～③の合格を目指す。 ①所属合格 ②マネジメント対象合格③養成所合格			
29	・声優プロダクションと連携しオーディションを実施【6】 オーディション内容は下記の通り。 ①自己PR(1分以内) ②歌(ワンコーラス) ③原稿読み(台詞、ナレーションなど) ④質疑応答			声優プロダクションオーディション担当者からアドバイスを個別にうけ、表現者として必要な知識を得る。 下記の①～③の合格を目指す。 ①所属合格 ②マネジメント対象合格 ③養成所合格			
30	・【前期末試験】模擬オーディション実施 (株)オンサイト(職業実践専門課程連携企業)と連携 ①自己PR(1分以内) ②歌(ワンコーラス) ③原稿読み(台詞、ナレーションなど)④質疑応答			プロダクション目録で、左記の①～④を表現でき、 プロダクション所属レベルまたは、声優養成所マネジメント対象レベルになる。			

授業科目名	自己表現技法(2)		担当者名	箱崎貴司			
			実務経験	アクション指導、振り付け経験多数あり			
教科書 教材	卒業公演用脚本	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数	声優科	2年	通年	必修	講義・演習
	120						
授業概要	卒業後に声優、俳優として活動する為に必要な土台と最低限の技術習得。並びに2年間の集大成となる卒業公演の上演。						
学習到達目標	声優、俳優として活動するための表現力を身につける。卒業公演を上演する。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、セリフを覚える、稽古でついた段取り、動線の復習をすること。						
評価方法	授業に取り組む姿勢20%、出席率20%、技術習得度20%、テスト40%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	シアターゲーム1(伝達の基礎トレーニング)			伝える事、受け止める事への理解を深める			
2	シアターゲーム2(身体操作のトレーニング)			動く事で第三者からどう映るか客観性を磨く			
3	セリフ基礎1			セリフの意味を理解して深める癖をつける			
4	セリフ基礎2			セリフを言葉にして相手に届ける感覚を掴む			
5	動きとセリフの連動1			不自然にならない動き、台詞を学ぶ			
6	動きとセリフの連動2			心情と動きの同調を目指す			
7	エチュード(即興劇)1			物語を創造し完結させるトレーニング			
8	エチュード(即興劇)2			前回のレッスンで気がついた改善点を修正して発想力と想像力を磨く			
9	エチュード(即興劇)3			考える時間を最小限に判断する即興力を学ぶ			
10	台本実習(抜粋)1			脚本の抜粋したシーンを読解しつつ稽古していく			
11	台本実習(抜粋)2			役を変えて違う視点から読解力を高めていく			
12	台本実習(抜粋)3			発表。演劇的舞台の使い方に慣れる。			
13	卒業公演準備			卒業公演に向けての心構え、準備等の説明			
14	卒業公演稽古			キャスティング、読み合わせ			
15	テスト			実技試験(無言劇)			
16	卒業公演稽古2			読み合わせ、共演者との関係性の把握			
17	卒業公演稽古3			半立ち稽古、台本を持って動いてみる			
18	卒業公演稽古4			前回の復習と先のシーンの半立ち稽古			
19	卒業公演稽古5			前回の復習と先のシーンの半立ち稽古			
20	卒業公演稽古6			前回の復習と先のシーンの半立ち稽古			
21	卒業公演稽古7			ここまでのシーンを再復習			
22	卒業公演稽古8			先のシーンを半立ち稽古			
23	卒業公演稽古9			前回の復習と先のシーンの半立ち稽古			
24	卒業公演稽古10			前回の復習と先のシーンの半立ち稽古			
25	卒業公演稽古11			前回の復習と先のシーンの半立ち稽古			
26	卒業公演稽古12			ここまでのシーンを再復習			
27	卒業公演稽古13			粗通し稽古、小返し稽古			
28	卒業公演稽古14			通し稽古、小返し稽古			
29	卒業公演稽古15			通し稽古、小返し稽古			
30	卒業公演稽古16			通し稽古、稽古場ゲネプロ(テストを兼ねる)			

授業科目名	殺陣・アクション		担当者名	箱崎貴司			
			実務経験	アクション指導、振り付け経験多数あり			
教科書 教材	なし	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数	声優科	2年	通年	必修	講義・演習
120							
授業概要	剣術アクション、格闘アクションの技術と知識の習得						
学習到達目標	映像、舞台出演の際にアクションシーンに出演可能な最低限の技術を身につける						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、アクション要素を含む映画、舞台、パフォーマンスにできるだけ多く触れること。						
評価方法	出席率20%、取り組む姿勢30%、実技試験50%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	アクションとは			アクションを学ぶ上での注意点と心構えの理解			
2	構え、扱いの基礎			構え、動きの基礎			
3	アクション基礎1			刀の振り方、打撃の基本、受け身の練習			
4	アクション基礎2			前回の復習と新しい振り付けの練習			
5	アクション基礎3			前回の復習の後、成果の発表			
6	殺陣アクション基礎1			1対1の簡単な殺陣、アクション練習			
7	殺陣アクション基礎2			前回の復習と新しい振り付けの練習			
8	殺陣アクション基礎3			前回の復習の後、成果の発表			
9	多人数のアクション基礎1			1対数名の簡単な殺陣、アクション練習			
10	多人数のアクション基礎2			前回の復習と新しい振り付けの練習			
11	多人数のアクション基礎3			前回の復習の後、成果の発表			
12	殺陣を創る1			学生が主体でアクションの振り付けをする(刀)			
13	殺陣を創る2			学生が主体でアクションの振り付けをする(打撃)			
14	殺陣を創る3			刀、打撃のアクションを学生が演出			
15	テスト			創作したアクションの発表			
16	刀、格闘応用1			難易度の高い技術の習得を目指す			
17	刀、格闘応用2			コツを掴むための反復練習			
18	刀、格闘応用3			反復からの応用練習			
19	刀、格闘応用4			練度をあげる為の反復稽古			
20	刀、格闘応用5			発表と総括。疑問点をクリアにしてい			
21	殺陣アクション創作応用1			よりアクション性の高い殺陣を学生で創作			
22	殺陣アクション創作応用2			引き続き創作、問題点を洗い出す			
23	殺陣アクション創作応用3			出来上がった振り付けを反復練習			
24	殺陣アクション創作応用4			反復練習、間合いの微調整			
25	殺陣アクション創作応用5			発表と総括。疑問点をクリアにしてい			
26	アクション総合1			剣術と格闘を合わせたアクション練習			
27	アクション総合2			より正確に早く立ち回る練習			
28	アクション総合3			復習。練度を上げる			
29	アクション総合4			発表と総括。疑問点をクリアにしてい			
30	テスト			実技試験			

授業科目名	日本舞踊		担当者名	西崎千久沙			
			実務経験	日本舞踊指導43年			
教科書 教材	日本舞踊関連のプリント	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数 60	声優科	2年	通年	必修	講義・演習
授業概要	日本舞踊の歴史や基本の形及び芝居に必要な表現力を学ぶ・行儀、所作振る舞いを学ぶ・体幹を鍛える・浴衣の着付け及びたたみ方を学ぶ・邦楽に慣れ親しむ						
学習到達目標	授業概要の全てを習得し、身につける						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、現場を想定した立ち居振る舞いや自主トレーニングを行い、授業外でも表現者としての体調管理と感性向上に努めること。						
評価方法	出席率20%、課題提出20%、実技試験40%、授業態度20%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	自己紹介・準備物の説明・授業での姿勢やマナー・基礎トレーニング			授業内容を習得し身につける			
2	日本舞踊とは何か・邦楽についてプリント配布、説明、質疑応答・基礎トレーニング			授業内容を習得し身につける			
3	準備物の確認・振りノートの書き方・体幹基本トレーニング			授業内容を習得し身につける			
4	着付け・着物と紐のたたみ方・体幹基本トレーニング			授業内容を習得し身につける			
5	着付け・着物と紐のたたみ方・体幹基本トレーニング			授業内容を習得し身につける			
6	体幹基本トレーニング・所作振る舞い・扇の扱い			授業内容を習得し身につける			
7	体幹基本トレーニング・踊り・扇の扱い			授業内容を習得し身につける			
8	体幹基本トレーニング・振りノート書き・踊り			授業内容を習得し身につける			
9	体幹基本トレーニング・振りノート書き・踊り			授業内容を習得し身につける			
10	体幹基本トレーニング・振りノート書き・踊り			授業内容を習得し身につける			
11	体幹基本トレーニング・振りノート書き・踊り			授業内容を習得し身につける			
12	体幹基本トレーニング・振りノート書き・踊り			授業内容を習得し身につける			
13	体幹基本トレーニング・振りノート書き・踊り			授業内容を習得し身につける			
14	体幹基本トレーニング・振りノート書き・踊り			授業内容を習得し身につける			
15	前期末試験						
16	体幹基本トレーニング・振りノート書き・踊り			授業内容を習得し身につける			
17	体幹基本トレーニング・振りノート書き・踊り			授業内容を習得し身につける			
18	体幹基本トレーニング・振りノート書き・踊り			授業内容を習得し身につける			
19	体幹基本トレーニング・振りノート書き・踊り			授業内容を習得し身につける			
20	体幹基本トレーニング・振りノート書き・踊り			授業内容を習得し身につける			
21	体幹基本トレーニング・振りノート書き・踊り			授業内容を習得し身につける			
22	体幹基本トレーニング・振りノート書き・踊り			授業内容を習得し身につける			
23	体幹基本トレーニング・踊り			授業内容を習得し身につける			
24	体幹基本トレーニング・踊り			授業内容を習得し身につける			
25	体幹基本トレーニング・踊り			授業内容を習得し身につける			
26	体幹基本トレーニング・踊り			授業内容を習得し身につける			
27	体幹基本トレーニング・踊り			授業内容を習得し身につける			
28	体幹基本トレーニング・踊り			授業内容を習得し身につける			
29	体幹基本トレーニング・踊り			授業内容を習得し身につける			
30	後期末試験						

授業科目名	ヴォーカルレコーディング		担当者名	小野寺明敏			
			実務経験	CM.ゲーム.アーティスト等の楽曲制作			
教科書 教材	特になし。	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数	声優科	2年	通年	必修	実習
		120					
授業概要	エンタメ業界デビューを踏まえた、オーディションプレゼンのための音源制作。アーティストに必要な音楽的基礎知識を学びながら、DAW、DTMソフトを活用し楽曲制作、音源編集、自己プロデュース能力の向上と、エンタメ業界の理解とスキルアップ。						
学習到達目標	各会社オーディションの傾向を踏まえた楽曲選定と、オリジナルも含めた音源制作。エンタメ業界で仕事する為の必要な知識を理解し修得する。DAWソフトを用いて楽曲制作、音楽全般の知識を身に付ける。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、エンタメ業界内の音楽力が占める位置と、自分のスキルを俯瞰で比較する。個性を如何に武器に変えるかの思考。						
評価方法	出席率40%、実技評価30%、課題提出20%、授業態度10%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	レコーディング基礎、Key設定の基本。オーディション対策、楽曲選定-録音。			周辺機器の使用手法、収録実践。			
2	楽曲選定-録音／エンタメ業界の仕組みについて。			業界内での自分の方向を見つける。			
3	楽曲選定-録音／PCの基礎操作。			PC立ち上げ～アプリ終了までの実践。			
4	楽曲選定-録音／ProTools基礎。			アプリの使用目的、基礎操作。			
5	楽曲選定-録音／ProTools.OKテイクの作り方 1。			収録素材の編集実践。			
6	楽曲選定-録音／ProTools.OKテイクの作り方 2。			自分の歌素材の編集実践。			
7	楽曲選定-録音／ProTools.OKテイクの作り方 3。			自分の歌素材の編集～エフェクト効果。			
8	楽曲選定-録音／ループ音源を使用してのBGMの制作1。			GarageBandの基礎操作実践。			
9	楽曲選定-録音／ループ音源を使用してのBGMの制作2。			アンサンブルの仕組みとは。			
10	楽曲選定-録音／W、コーラスの録音。			自分の声の多重収録の効果。			
11	楽曲選定-録音／リズムの基礎、ドラムフレーズ作成。			8ビート、16ビートの違い。			
12	楽曲選定-録音／メジャー、マイナースケール 1。			コードに対しての使える音階とは。			
13	楽曲選定-録音／メジャー、マイナースケール 2。			コードに対しての使える音階とは。			
14	楽曲選定-録音／和音の仕組み／コード進行の作成 1。			進行による流れの違いを感じ取る。			
15	楽曲選定-録音／和音の仕組み／コード進行の作成 2。			明暗の違いを感じ取る。			
16	楽曲選定-録音／リズムパートのデータ入力。			Logicの基礎操作実践。			
17	楽曲選定-録音／和音パートのデータ入力。			Logicの基礎操作実践。			
18	楽曲選定-録音／メロディーの作成 1。			自由にメロディーを奏でてみる。			
19	楽曲選定-録音／メロディーの作成 2。			自由にメロディーを奏でてみる。			
20	楽曲選定-録音／メロディーの作成 3。			Aメロ、Bメロ、サビの違いを感じる。			
21	楽曲選定-録音／収録曲のOKテイク編集.ProTools			自分の歌素材の編集実践。			
22	楽曲選定-録音／収録曲のOKテイク編集.ProTools			自分の歌素材の編集～エフェクト効果。			
23	楽曲選定-録音／指定コード進行に対してのメロディー付け 1			コードに対しての使える音階の確認。			
24	楽曲選定-録音／指定コード進行に対してのメロディー付け 2			メロディーのリズム変化を感じ取る。			
25	楽曲選定-録音／オリジナル楽曲の作成 1。			コード進行の確定。			
26	楽曲選定-録音／オリジナル楽曲の作成 2。			メロディーライン作成。			
27	楽曲選定-録音／オリジナル楽曲の作成 3。			メロディーライン作成／作詞。			
28	楽曲選定-録音／オリジナル楽曲の作成 4。			メロディーライン作成／作詞。			
29	楽曲選定-録音／オリジナル楽曲のVoテイク編集。			収録した歌データの整音。			
30	楽曲選定-録音／オリジナル楽曲の編集仕上げ。			エフェクト効果等のミックス完了。			

授業科目名	エンターテインメントガイド(2)		担当者名	吉田 英功			
			実務経験	メジャーデビュー(4度改名)、exp9他芸能プロ、レコード会社のオフィシャルボーカル講師多数			
教科書 教材	教科書は指定しない	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	声優科	2年	通年	選択	講義・実習
授業概要	・ボーカルストレッチ(心身のウォームアップ) ・座学はボーカリストとして必要な知識を共有する ・発声練習・個別レッスンを中心にボーカル技量向上に重点を置いたレッスン						
学習到達目標	オーディション通過、メジャーデビュー						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、レッスン曲を、部分的にフレージング(歌い直し)と、自分で納得できるところまで、繰り返しリピートすること。						
評価方法	基礎力(30%)発声・音程・リズム等 応用力(40%)表現力・構成力・リスニング等 平常点(30%)授業態度・出席率						
週数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	学校は社会(業界)に出るための、練習の場である		本格的なレッスンに入る前に、挨拶、礼儀、ルール、スタジオや道具の扱い方についての約束事。				
2	習慣にすると良い事。準備の必要性及び、発声、プレス、腹式呼吸の基本とは		突然良いパフォーマンスは生まれない。声を出す前のストレッチ等ウォームアップ法を公開。発声等の基本についても触れる。				
3	オーディション対策		オーディションとは、業界への就職面接と心得る。まずは受ける会社に興味を持つ事。				
4	サムライに刀、板前に包丁、歌手にマイク		マイクの特性を理解し、歌い手の魅力をより引き出すため、マイクとの付き合い方を紹介。				
5	個別レッスン		それぞれの方向性、個性、クセ等を客観的に分析。魅力度アップを目指す。				
6	オーディション対策		自己PRの重要性、緊張感にどう対応していくかにも触れる。				
7	課題曲レッスン		オーディションでよく使用される曲を元に、細部にわたる解釈を男女別に解説。				
8	ロスの少ない声、息とは		やみくもな全力投球は、いつか過度な疲労・故障・影響を及ぼすであろう。ムダの少ない声・息について理解する。				
9	個別レッスン						
10	母音の属性		日本の歌を歌うには、母音をしっかり理解する必要がある。その特性と法則性、効果について。				
11	課題曲レッスン						
12	デビュー前、デビュー後の生活あれこれ		歌手はタレントであり、タレントは自由業である。個人事業主であることを覚悟する。保険、税金、必要経費等、知って得する情報。				
13	個別レッスン						
14	模擬オーディション		前期でどれほど成長しているか、オーディションを想定して表現する時間。				
15	模擬ライブ		「ショー」を一人でどのぐらい成立させられるのか、試される時間。				
16	前期の復習、確認		前期でやってきたことが錆びついていないかの確認。				
17	作詞講座		ヒット曲には、ある法則性がある？過去のヒット曲も交えて、詞の書き方を提案。				
18	個別レッスン						
19	セールスポイントは何だ！		平均点よりも何か一つ突出する武器、売りが欲しい。既存の歌手を例に、些細な事にも目を向けよう。				
20	課題曲レッスン						
21	知らないと損する業界十訓		スタッフさん、同業者、お客様方々との関わり方、やった方が良い事、気を付けた方が良い事等、講師自身の経験も交えて、共に考える時間にする。				
22	個別レッスン						
23	レコードコピーは上達の王道		歌い手は誰しも、お手本にしている歌手がいるもの。息遣いまで細部にコピーする事で、自分の個性など見えてくるものがある。				
24	課題曲レッスン						
25	お金の話		印税、給料、ファンクラブ、グッズ収入、レギュラー番組、ギャラ単価他、講師の失敗談を交えながら。				
26	個別レッスン						
27	基本だけにこだわらない		発声等基本は大切であるが、プロで生き抜くアーティストは皆、自分だけの感覚、方法論を持っている。自分なりの「型」って何だ。意見交換したい。				
28	個別レッスン						
29	模擬オーディション		後期でどれほど成長しているか、オーディションを想定して表現する時間。				
30	模擬ライブ		「ショー」を一人でどのぐらい成立させられるのか、試される時間。				